

令和元年 教育委員会第14回秘密会 会議録

日 時 令和元年 8 月 27 日（火）

午後 4 時 53 分～午後 5 時 20 分

場 所 教育委員会室

議事日程

第 2 協議

【子ども総務課】

（2）令和 2 年度 部予算編成方針（兼 令和 2 年度 部組織目標）

出席委員（4 名）

教育長	坂田 融朗
教育委員長職務代理者	中川 典子
教育委員	金丸 精孝
教育委員	長崎 夢地

出席職員（11 名）

子ども部長	大矢 栄一
教育担当部長	村木 久人
子ども総務課長事務取扱 子ども部参事	恩田 浩行
副参事（特命担当）	大塚 光夫
子ども支援課長	新井 玉江
子育て推進課長	中根 昌宏
児童・家庭支援センター所長	安田 昌一
子ども施設課長	小池 正敏
学務課長	纓片 淳一
指導課長	佐藤 友信
主任指導主事	佐藤 達哉

欠席委員（1 名）

教育委員	俣野 幸昭
------	-------

欠席職員（0 名）

書記（2 名）

総務係長	村松 紀彦
総務係員	橋本 悠

坂田教育長 | それでは、再開をいたします。

◎日程第2 協議

子ども総務課

(1) 令和2年度 部予算編成方針（兼 令和2年度 部組織目標）

坂田教育長 | 令和2年度の子ども部の予算編成ということでございます。

ご説明をお願いします。

子ども総務課長 | はい。それでは、令和2年度の部予算編成方針、これは部の組織目標になりますけれども、こちらのご説明をさせていただきます。

まず、全体の予算編成方針、一番上のところですが、こちらのほうは昨年度と同じで、地域・家庭・学校のすべての大人が子どもを共に育て、自らも共に育つ「共育」の理念を持ち、子ども一人一人の健やかな育ちと学びができる教育環境をつくるとともに、保護者が責任と安心、ゆとりをもって子育てする喜びを感じられるように支援しますとありまして、こちらは引き続きこの形で進めていきたいと考えております。

以下、変更点について、簡略にご説明をさせていただきます。

まず、1番のところですが。みらいプロジェクトで言うと、22、「保護者の多様なライフスタイルに応じた子育てができる環境を整えます」というところですが。

「保育園や学童クラブの待機児童ゼロをめざし、保育供給量の拡大を図りつつ、保育の質の維持・向上に取り組みます」ということで、今年度、国の定義変更に伴い、残念ながら保育園で待機児童が出てしまいましたので、ゼロの継続というところの言い回しが変わって、ゼロを目指していくということで、保育の供給量をまず拡大し、それに合わせて質の維持・向上もあわせて進めていくという形で表現を変えております。

それから、2番目です。新年度の目玉ということで、赤字で書いてありますけれども、「病児保育室の運営を実施し、保護者の就労等への支援を行う」、それから「区立園へのICT導入を推進し、保育園の事務改善を行い、保育士の働き方を見直しながら保育の質の向上を図る」ということで、進めていきたいと考えております。

それから、3番目につきましては、四番町保育園・児童館の整備についてということで、時点修正ということで、令和元年度に実施設計を完了し、既存施設の解体工事及び新築工事を進めます、令和6年度の竣工を目指します、という形になっております。

それから、5番目です。2つ目のところ、「要支援家庭への放課後支援を推進し、児童の生活支援と保護者の養育支援を図ります」。枠内の3番目、「アンガーマネジメントスキルについて保護者が習得できるよう支援し、体罰によらないしつけと子育ての普及啓発を図ります」という形です。

それから、7番目です。発達に不安のある子どもたちへの支援の充実とい

うことで、「(仮称)子どもケアプランの取り組みを推進し、子どもの発達状況に応じたライフステージ毎の支援プランを作成するとともに、関係機関と子どもの支援情報の共有や連携を図り、将来を見据えた切れ目のない支援を実現します」。それから、枠内の2番目として、「子どもの障害や発達面の課題の早期発見を行うとともに、障害や発達に関する相談や療育指導の体制の充実を図ります」ということで、今年度8月にぴかいちが麴町のほうで事業を拡大したということで、重症心身障害児の対応ができるようになりましたので、少し広めに対象者を書くという形で修正を加えております。

裏面をご覧ください。9です。「他者を思いやり、」というところです。「発達障害等のある児童・生徒の学習・生活上の困難さの改善・克服及び在籍学級における障害に適した指導・支援により、通級による指導を利用して児童・生徒が可能な限り多くの時間、在籍学級で有意義な学校生活を送ることができるようにします」。それから、2点目として、「全ての教職員が障害への理解をさらに深め、学校(園)生活支援シート等を一層活用した切れ目のない支援を行います」。

それから、11番のところが時点修正で、令和2年に修正します。

それから、12番のところは、登下校時の安全確保ということで、こちらのほうは通学路以外の部分についても安全確保を進めていこうということで、表記としては、もう少し包括的な言い方をさせていただいております。

それから、13番のところは新たに時点を書き加えまして、「お茶の水小学校・幼稚園の整備は、令和元年度に実施設計を完了し、解体・新築工事を進めます。令和4年度の竣工をめざします」。それから、和泉小学校のところについては、最後の赤のところですけども、「基本設計業務に着手」ということで、変更させていただいております。

説明は以上でございます。

坂田教育長

はい。ありがとうございました。

来年度の予算を作る際の、柱建てということでございます。基本的な大きな柱というのは、長期の基本計画、区の基本計画の中に、もう既にある、その柱自体は変わらないということなので、それを第3次の基本計画、これはちよだみらいプロジェクトと通称言っていますけれども、その柱建ての中で、それぞれ個別の施策を表現していくということです。もちろん、継続的に我々の事業でやらなきゃいけないことは相当多いわけですけども、今般その中で、今ご説明のあったところに力点を置きながら、来年度の予算組みとうちの事業執行をしていきますということでございます。

相変わらず保育園、学童クラブは足りない状況が続きます。で、とりわけ保育園については、途中で国のカウントの仕方が変わって、待機児童が何名かが出たわけです。そういうところから、今後はゼロを目指すというようなことでの施策がこれから具体的な事業として展開されます。

それぞれの柱に沿って、来年度、特に施設関係が多いので、施設関係は、令和2年度はこんなことをやりますというようなことを改めて記載し、それ

	にかかわる予算を要求していくということになっています。 何かお気づきの点は。 金丸委員。
金 丸 委 員	先ほどの問題との絡みで教えていただきたいんですが、1 番の多様な子育てニーズへの対応の、この中身を読んだときに、先ほどの会計年度任用職員制度が導入されることによる影響はどういったものなのでしょうか。
子 ども 部 長	会計年度任用職員は、あくまでも区立保育園の非常勤職員に限定されていますので、区立保育園の数と定員は変わりません。したがって、この会計年度任用職員により、例えば区立園の回しがきつくなるとか、そういうことはあるかもしれませんが、区立保育園の定員数は変わりません。したがって、待機児童ゼロを目指す上での保育の供給量の拡大は、あくまでも新規の保育園の誘致により賄っていくということです。会計年度任用職員の採用増がこの待機児童ゼロを目指す供給量には、イコールでは反映しないというふうに考えています。
金 丸 委 員	はい。ありがとうございます。
坂田教育長	はい。ありがとうございました。 ほかに疑問がございましたらお願いいたします。 総務課長。
子ども総務課長	すみません。本日、ざっと説明させていただきましたけれども、何かお気づきの点がございましたら、時間がなくて大変恐縮なんですけれども、今週末までにこちらの方にお問い合わせ、あるいはご提案いただければ修正はできますのでご連絡よろしくをお願いいたします。 以上です。
金 丸 委 員	1 点だけ、よろしいでしょうか。
坂田教育長	はい。金丸委員。
金 丸 委 員	5 番の 3 つの丸のうち一番下なんですけど、アンガーマネジメントスキルというのは非常に重要だと思うんですけども、これについて、結局のところ、保護者の人たちに対して、そのスキルを向上するための講習等をやらなきゃいけないですけども、多くの場合、問題があるような家というのは、そういう講習会に出て来ないですよ。それについて、何かうまい方策はお考えになっていらっしゃるのでしょうか。
坂田教育長	所長。
児童・家庭支援センター所長	金丸委員がご指摘のとおり、こちらのアンガーマネジメントのスキルを習得していただくために想定しております保護者の方は、いわゆるそういった講習会にご参加いただけるような方を想定しておりますので、それ以外のいわゆる保護者の方たちに対して、いわゆる働きかけといったものについては、これは引き続き、例えばケースとして虐待のリスクのあるようなご家庭を支援させていただく際に、専門職がかかわりを持って、そういった保護者の方のフォローをさせていただいておりますので、そういったやり方で、そこをより手厚くといいますか、スタッフ等も充実をさせながら行っていくつ

	もりでございます。これにつきましては、この予算とはまた別に、人員要求という形で人事課のほうに要求をしまいたしますので、それこそ会計年度任用職員ですか、そういった専門の職員の層、スタッフの層を厚くするということを想定しているものでございます。
金 丸 委 員	よろしく願います。
坂 田 教 育 長	はい。ありがとうございます。 ほかにお気づきの点、よくわからない点。 中川委員。
中 川 委 員	何をしたいというのがもうちょっと、こう、具体的にわからないと、予算ってつかないと思うんですが。
坂 田 教 育 長	部長。
子 ども 部 長	来年度の場合ですと、例えば、待機児童ゼロみたいなものは方針として目指すというものもありますから、大きな目標です。個々の、じゃあこの待機児童ゼロを目指しますよという、ここで方針を出したとして、この後、例えばこれに基づいて具体的な予算要求になると、例えば来年度の保育園を誘致するのは麴町地区に何園とか神田地区に何園というのは、それぞれ各課のほうで、その誘致する数を出して、それに伴って幾らぐらい金額を要求するというふうになってきます。この段階での一番大きな方針は、待機児童ゼロのために保育の供給の拡大を図っていきますよという、まず大きな方向性を出して、次の段階で、この大きな方向性に基づいて、各課がそれぞれ第2段階目として、実際の予算を伴った予算要求をするという形になっています。今の段階では、各部が方向性を出して、それぞれがその方向性について話し合っ、この方向性はこれでいいかどうかというのは、各部が全部集まって話し合うという形になっています。中には、先ほどのアンガーマネジメントといった少し細かい内容も書かれています。
中 川 委 員	はい、ありがとうございます。
金 丸 委 員	じゃあ、もう一点だけ。10番のところなんですけれども、10番の最初の丸で「学校（園）等におけるティーム・ティーチング」というふうに書いてあるんですけど、これは教科担任制までを含むわけではないんでしょうね。
指 導 課 長	そこまでのシステムをどうするところまでは考えています。講師をつけることによって、子どもたちによりきめ細やかな指導をするということを前提としています。
金 丸 委 員	ありがとうございます。
坂 田 教 育 長	はい。ありがとうございます。 ほかにございますか。よろしいですか。 （な し）
坂 田 教 育 長	それでは、以上をもちまして、令和元年千代田区教育委員会第14回の定例会を閉会いたします。ありがとうございました。